

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3072400314
法人名	社会福祉法人 串本福祉会
事業所名	潮岬あゆみ園
所在地	和歌山県東牟婁郡串本町潮岬659 (電話) 0735-62-7122

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成22年2月10日	評価確定日	平成22年3月2日

## 【情報提供票より】(22年1月4日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成11年6月21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	15人, 非常勤 5人, 常勤換算 14.2人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建て	1 階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	第1ユニット35,000円 第2ユニット50,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	250 円
	夕食	300 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(1月4日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	国保串本病院 ・ 中松歯科医院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者は、職員が業務上の不安なことに対しやりがいを持てる様サポートする等相談し易い存在であり、職員の指導にもゆっくりと時間をかけ学ぼう伝える等職員にとって癒しとなっている。また、利用者・家族から「園で看取り介護を」と望まれる声を受け、体制づくりに努力をしている。職員も看取りに関する研修に参加したりミーティングで取り上げる等意欲的に取り組んでいる。管理者、職員が一体となって利用者家族を中心にした施設づくりをめざしている。和やかで気持ちよく過ごせる施設である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	日常、機会あるごとに検討を続けて、開設以来の職員が多いので惰性にならないように心がけている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価する事が学びにつながると、全員の意見を取り入れまとめた。常に機会あるごとに検討を続ける予定である。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	生活保護の利用、特養に転居した時の軽減策、施設防災スプリンクラー補助などについて町と相談したり、グループホームの意義など知って貰う働きかけをしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を設置しているが余り利用されていないので、管理者・職員とも出来るだけ話し易い雰囲気作りに努力している。話してくれた内容はミーティング・会議に掛け検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域行事への参加、小中学校の運動会への参加、地域の草刈り、ボランティアの受け入れ等積極的に地域の一員として交流している。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念をもとに、職員で話し合い「明るく ゆったり、いきいきと」を事業所独自の理念とし、玄関やリビングに掲示している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常的にとりあげており、月一回のミーティング、モニタリング、法人会議の伝達などの機会を利用し理念を共有しており、また、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議の委員に区長が入っており、施設の案内、行事案内など情報提供に協力してくれている。地区の草刈を手伝ったり、小中学校から運動会の招待を受け参加したり、ボランティアの出入りもあり、地域交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員の意見を集約して管理者がまとめた。外部評価に対しては皆で見直しの機会とし、積極的に改善に努めている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、町福祉課、地域包括支援センター、家族代表、区長も参加しており、ホームから特養に移る時の差異など説明し支援方法について話し合ったり、ホームの報告などで意見を貰いサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設から相談事や書類提出の機会を利用して連携を図っており、最近ではスプリンクラーの設置に関して相談し指導を貰う等、町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態の報告は面会時に説明する等、個々に応じ対応している。家族向けの園通信は月一回、地域向けの園便りは2～3ヶ月に一回発行し、観て解り易いよう写真を多く載せる等工夫している。金銭報告は毎月領収書を送付や手渡しで報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に設置しているが利用が少ないが、直接管理者に相談してくれるので、カンファレンスやミーティングで検討して説明等対処している。普段から意見がいただける雰囲気作りに心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者と後任者との引継時は勤務を重複して丁寧に行われ、利用者にも慣れて貰えるように配慮している。職員の勤務経験が長く豊かである。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は毎月一回法人の勉強会に順次参加したり、個人でも研修会や勉強会に参加している。働きながら学べる環境づくりを進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はこれまでも他の施設の管理者と交流していたが、さらに計画的な交流が進められるよう取り組んでいる。また、交流を行った職員からは、学びをホームに取入れたいと意欲を持つ等、良い体験となった。	○	管理者中心の交流から職員同士への交流へと発展しつつあり、良い関係が築かれつつある。協働のネットワークとして更に発展できるよう、推進の役割を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が馴れるように利用前に家庭訪問し、使い慣れた家具を共に選んだり、小規模施設があるのでデイを利用したり、徐々に馴染めるように利用者・家族と相談しながら工夫している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事では職員が利用者に教えてもらったり、経験談を聞いたりし、多くを学びとして受け入れている。調理手伝いにも、職員が見守りながらほのぼのとした雰囲気の中でよい関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使用し、希望や意向が一覧できるよう情報を集めて個人ファイルにまとめ、職員間で共有し利用者本意に検討している。金銭管理希望があれば、どの様にするかを本人本位に検討し進めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの希望を聞き、6ヶ月に一回短期目標を出しているほか、毎月のミーティングで話し合い、家族・関係者からの意見も取入れながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月に一回見直しており、その記録経過をセンター方式により残し、変更の必要な内容には、都度変更を行い家族・関係者の意向も含んで現状に合った介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の小規模多機能型施設との交流や、外出、外泊、通院など必要に応じて送迎支援しており、長期入院時にも再入居出来る様に柔軟な対応をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の医師が月2回往診に来ているが、多くはかかりつけ医や協力医療機関を利用し、適切な医療を受けられる様にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	2年前から看取り体制を取っており、夜間担当ナースと連携をとりながら、できるだけ家族の希望を取り入れ関係者と話し合い、対応方針を全員で共有している。	○	実際の看取り介護が行われる機会はまだないが、管理者は看取り介護の充実に取り組み医療連携体制も確保されている。法人内の他事業所とも連携して必要に備えて学ばれることが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はさりげなく見守り、食事介助では床に落ちた汚れを何気なく拭き取るなど、自然でプライバシーに配慮した介護となっている。言葉かけにも声音など気配りしている。記録等関係書類は外部から見えない戸棚に保管管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調に合わせて、過ごせるように心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に同じテーブルで声かけをしながら楽しく食事をしている。食器の後片付けや、食器洗いなど利用者ひとり一人の力量に配慮しながら手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の希望に沿、マンツーマンで対応している。利用者同士の希望や要望などもあり、入浴が楽しめるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味の畑仕事、調理、外出、花見などの季節行事や、洗濯物たたみの手伝いなど、その人の得意に合わせて役割と楽しみ事の場面づくりに努力している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別に行きたい場所には家族と相談して協力して貰っている。畑を見に行ったり、個別に買い物に行ったりする他、地域の催し等にも積極的に参加している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていない。職員は拘束や鍵をかけることによる弊害を学習し、よく理解している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	区長の協力を得て、区の自主防災会との連携が取れている。また、緊急時には放送設備を使用出来るようになっている。定期訓練は年2回実施され実施後の反省会を持ち予防につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分バランスをチェックして記録に残し、不足しないようにしている。ホーム特製のポタージュスープや、便秘緩和に手作りアロエジュースを作るなど独自の工夫をしながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は採光に気を配り直射日光には竹ひご製の簾を掛け調節しており、テレビ・職員の声などは適度である。ソファーにゆったりと腰をおろし、心地良く過ごせるように配置している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、好みの家具、ソファ、椅子、小物類が配置され本人が過ごし易い様に工夫している。		